

「コチア青年移住60周年祝辞」（2015年9月20日）

前田会長をはじめとするコチア青年並びに御家族の皆様。

仙台農林水産省参事官はじめ日本から参加いただいている皆様。

コチア青年の皆様が移住60周年を迎えられ、このような盛大な式典を開催されることに対し、日本政府を代表して心よりお祝いを申し上げます。歴史を刻む今日一日を名誉総裁として、また、大使として一緒にお祝いさせて頂けることを非常に有難く思います。今日の移住60周年式典は外交関係樹立120周年行事の一環として開催いただいている事に感謝申し上げます。

また、志半ばで倒れられたコチア青年の御霊に、改めて心よりご冥福をお祈りいたします。

8月28日、コチア青年二世であるイイボン連邦下院議員のご尽力により、「コチア青年60周年感謝式典」が、ブラジリアの連邦下院議場内で成功裏に開催されたことにお祝いを申し上げます。

コチア青年の皆様は御夫人と力を合わせ、この60年間にブラジル社会、経済の発展に多くの貢献をされました。特に、次の3つの

貢献が非常に大きいと考えます。

第一の貢献は、ブラジル農業産品（野菜、果物）の多様化です。皆様が生産された多様な農産品は、ブラジル国民の食生活を劇的に改善し、健康の増進をもたらしました。また、花き栽培の成功も皆様の大きな功績であり、ブラジル国民の生活を豊かにされました。

第二の貢献は、セハード開発です。不毛の地と言われたセハードは、日本とブラジルの協力の結果、大豆、トウモロコシなどの一大生産地になりました。ブラジルは、日本のみならず世界の食料安全保障にとって掛替えのない国となっています。セハード開発におけるコチア青年の皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。

第三の貢献は、幅広い分野におけるブラジルへの貢献です。コチア青年の皆様、皆様のお子様、お孫さん達は、農業分野にとどまらず、政治、行政、医学、ビジネス等、ブラジル社会のあらゆる分野で活躍しておられます。

皆様は、このブラジルの地において、間違いなく「とても大きな夢」を実現されました。

次に日本・ブラジル関係について一言申し上げます。

ブラジルは「世界有数の親日国」です。この背景には皆様を含む日系社会の「真摯な生き様」、「ブラジル社会への貢献」に対する高い評価があります。また、焼きそば等の日本食、柔道などがこれほど普及している国は他にありませんが、これも皆様の文化継承・普及活動の成果であり、心より感謝申し上げます。

昨年、安倍総理ご夫妻が現役総理としては10年ぶりにブラジルを訪問されました。今年は日伯外交関係樹立120周年を迎えており、日系社会の全面のご協力を得て、ブラジル全土で数百の関連行事が開催されています。その一方で、世代交代が進む日系社会との連携を如何に強化していくか、特に若い日系人の日本への関心を如何に喚起するかは、日本政府にとっても大きな課題です。総理訪伯の成果として、今年度から若い人達の日本への招聘人数を倍増する等幾つかの施策を大幅に拡充しています。

但し、政府ができることには限界があり、コチア青年の皆様が「コチア青年3世研修訪日団」を独自に派遣いただいていることは、日本と日系社会の将来にとって非常に重要な取り組みであり、感謝申し上げます。

最後に、コチア青年及びご家族の皆様のご健勝と一層のご活躍を
祈念して、私の祝辞とさせていただきます。

2015年9月20日

コチア青年移住60周年記念式典名誉総裁

駐ブラジル日本国大使 梅田邦夫